Architectural Institute of Japan

【カテゴリーII】

日本建築学会計画系論文集　第516号，273-280，1999年2月
J. Archit. Plann. Environ. Eng., AIJ, No. 516, 273-280, Feb., 1999

1950～1970年代の中国における建築雑誌に現れる建築用語の統計的分析

中国建築の近代化過程における建築家の言説に関する研究　その1

A STATISTICAL STUDY ON THE WORDS USED IN CHINESE ARCHITECTURAL JOURNAL IN THE 1950-1970S

Architects' discours in the course of architectural modernization in China

姜　涌*，近藤正一**，北川啓介*，張　健*，若山　滋***
Yong JIANG, Shoichi KONDO, Keisuke KITAGAWA, Jian ZHANG and Shigeru WAKAYAMA

This paper focuses to figure out the ideological trend of Chinese contemporary architects in the process of modernization and socialist transformation of traditional architectural culture by means of analyses of architects' discours published in "the Architectural Journal" in the 1950-1970s, which is often called as "the Period of Chairman Mao". Refering to the method of linguistics, the key-words of discours and its frequency used in architectural papers are indexed and counted by subjects, and then be classified into several categories in accordance with the axes of "social background-architecture-culture" and "architectural ontology-methodology-artistry". Through construction and transformation investigation, it is found that architectural thoughts in that period are based on the government policy, i.e., the combination of "function, economy and beauty" in architecture, and the criterion of these is socialism ideology and political propaganda. According to the movement of focuses of architects' discours following the pressure of ideology and mass movement, this period can be divided into 6 phases.

Keywords: Chinese Architecture, Modernization, Discours of Achitects, Keywords of discours, Architectural Journal
中国建築，近代化，建築家の言説，建築用語，建築雑誌

1．序論

中国では，清朝末期にあたる19世紀末，アヘン戦争をきっかけに，それまでの政治・文化が急激に変化し，行政・産業・教育などの改革が行われ，20世紀の初め頃，現代的な「建築学」及び「建築」という概念が，欧米や日本から導入された。1920年代には中国人の主導による建築学教育・建築設計が開始され，建築雑誌等における討論も活発になり[1]，欧米の近代文明の強い影響と，いわゆる「中華思想」に基づく中国の伝統的な独自の建築文化をどのように共存・融合させていくかが，注目されるテーマとなっていった。しかし，政治の激動及び頻発する戦争などによって活動が妨げられ，欧米・日本における建築思潮の劇的な変化に対して，中国の建築思潮と呼べるほどの思想は蓄積されなかった。

1949年の中華人民共和国の成立は，中国における近現代史の中で決定的な事件であり，その後，中国現代建築の歴史は，社会的にも建築的にも大きな変化を遂げ，中国は社会主義となり，独自の建築思潮が育まれることになった。その中で，中国建築界は，過去の建築思想と様式の模索を継続しつつ，新しい社会主義的な仕組みを再構成しようとした。当時の建築思想と建築家による言説は，現在に至るまで中国建築界に強い影響を与え続けており，現代中国の建築思潮の源流を探るうえで重要な意味を持っている。

1950～1970年代の中国建築界の特質として，社会主義の計画経済システムの中で，ほとんどの主要な建物が国家の投資によって建設されたことが挙げられる。建築学も国家による管理下にあり，建築家による建築理論・建築デザインに関する討論は，社会状況・政治状況に左右されていた。建築家・建築界の指導者及び政治家らによって，それぞれの立場から，建築思想面の社会主義化・建築芸術面の民族主義化・建築技術面の工業化と近代化[2]・建設投資面の合理化などが論考され，中でも，社会主義的な建築理論の構成と中国特有の建築様式の枠組み，あるいは中国の社会主義建築に関する理論と様式の仕組みは，建築界の話題として重視され続けてきた。アメリカのボザール式建築教育[3]を受けた中国人建築家たちは，建築様式を重要視し，中国における独自の建築様式の確立を唱えた。これらの議論は，当時の指導者の国家経済に対する政策および政治的圧力によって，往々にして歪曲・中止されており，この時期の建築家の言説に使用された用語は，意識的・無意識的に関わらず，政治的背景を色濃く反映している。

近年，日本においても中国の近代建築に関する興味が高まっており，1949年以前の中国近代建築史，特に上海・旧満州における建築活動に関する研究が多く報告されている。しかし，1949年以後の中国建築についての研究はいまだ不十分であり，特に現代中国建築思想の萌芽期であるいわゆる毛沢東時代の約30年間における建築思潮に

* 名古屋工業大学社会開発工学科　大学院生・工修　Graduate Student, Dept. of Architecture, Nagoya Inst. of Technology, M. Eng.
** 名古屋工業大学社会開発工学科　助手・工修　Research Assoc., Dept. of Architecture, Nagoya Inst. of Technology, M. Eng.
*** 名古屋工業大学社会開発工学科　教授・工博　Prof., Dept. of Architecture, Nagoya Inst. of Technology, Dr. Eng.

NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

関する調査・分析の必要性があると考えられる。

この分野における既往の研究は，龔德順ら「中国現代建築歴史の大綱」，傅朝卿「中国古典的な様式の新建築」，陳志華「中国における当代建築の歴史の大綱」，賴德霖「中国の近代建築の歴史に関する研究」，張欽楠「中国における建築デザインの40年間」，田中淡「中国建築学界解放後のあゆみ」等[4]がある。これらは，中国の建築界における近代から現代への過程を整理・構築し，建築思想と設計案の批評に主眼を置く評論であり，中国の近現代建築史の解明に貢献したが，本研究ではさらに言説の詳細な調査に基づく客観的視点から建築思想の潮流を明らかにする。

本研究では，中国建築界の主要な建築雑誌から建築思想の表現された論文を選択し，用語数による統計などの定量化された客観的尺度による分析から，建築思潮の変遷の大筋を捉えることを目的とする。

2．研究対象

中華人民共和国成立以後，中国における建築理論や作品・情報紹介の中心的役割を担い続けてきた中国建築学会の機関誌『建築学報』は，当時，掲載された様々な言説の視点・用語が，社会と建築界の様子を鮮明に反映しており，建築学に関するほとんど唯一の雑誌であったことから，本研究の研究対象として相応しいと考える。

また，中国の社会背景は，1978年の前後で，「毛沢東の時代」と「邓小平の時代」とに大きく分けることができ，建築界でも，1978年10月に中国建築学会の建築設計委員会によって，建築様式に関する討論活動が再開され，議論のテーマが政治を中心とする内容から「建築創作の振興」へと変化していった。

本研究の研究対象期間は，この雑誌の創刊された1954年から，改革・開放路線へ政策転換された1978年末までとする。

なお，『建築学報』は，政治的な影響により3回休刊している。1回目は1955年1～7月で，「民族形式」を宣伝して国家投資を浪費しているとの責任を負わされたことにより，2回目は1965年で，「設計革命」[5]によって編集部が政府・国民の反感を買ったことにより，3回目は1966年7月～1972年で，「プロレタリア文化大革命」の運動により，出版が一時中止された。

3．研究方法

3.1　対象論文の抽出

『建築学報』は，中国建築界の全般的な状況を反映する総合的な雑誌であり，掲載論文の中でも特に建築家の建築観が表現されているものを選択して抽出する必要がある。そこで，建築論を展開していない具体的な設計案の紹介・専門分野の討論・論文は除外し，著者の建築に対する観念がはっきりと現れた論文・建築界に関する社説・会議報告・談話を研究対象とする。そこに現われる建築用語を分析することによって，雑誌の編集と論文の内容を越えて，建築家の思潮における時代の焦点の移り変わりを捉えることができると考える。以上の視点により抽出された論文は，延べ18年間の刊行期間中で281篇となった。

3.2　キーワードとなる建築用語の選択・抽出

研究対象論文よりキーワードとなる建築用語を抽出するうえで，一定の基準を設ける必要がある。

阿部純一らは，言語学の視点から，「文を構成する最も基本的な構成要素（constituent）の一つとして命題(proposition)という範疇（category）が設定されている。これは，Sentence → Modality ＋ Propositionのような書き替え規則（rewriting rule）によって導入され」，「命題：文を伝える基本的な意味。状態や行為や出来事を描写する言葉表現が持つ最小の意味単位。日本語や英語の構造に依存した述べ方をするならば，命題の構造は，状態や行為や出来事を描写する動詞や形容詞などに対応する述語（predicate）と，その状態や行為や出来事に関する人や動植物や物などを描写する名詞などに対応する項（argument）とからなる。」[6]と述べている。つまり，「命題」の「項」となるキーワードは，著者の描写・評論した事象（event）・状態（state）・コメント（comment）・意見（opinion）等を表現する名詞・名詞化動詞などであり，文の主旨や視点を反映し，本研究における建築用語のキーワードに相当するはずである。

研究の普遍性・客観性を得るため，本研究では，研究対象とする論文の全文章中より上記の基準による建築用語をキーワードとして選択・抽出する。

『建築学報』1954年第1号の掲載論文，「継承和発展民族建築的優秀伝統」を例として挙げる（図-1）。

3.3　キーワードの分類と指摘頻度

キーワードを統計的に考察するため，建築用語を意味・使用の枠組みに基づいてグループ化し，建築用語の意味する対象の範囲を考慮して，35種類のカテゴリーを設定し分類した。これらをカテゴリー/1とし，さらにグループ化を進め，11種類のカテゴリー/2を設定した。これらは図-2のようにまとめられ，建築学と社会・文化背景との繋がりに関しては「社会背景－建築－文化背景」の相互関係として，建築学の分野の枠組みに関しては「建築本体論－建築創作論－設計技法論」の階層的関係として現すことができる[7]。

こうして用語のキーワードから分類されたカテゴリーごとに，『建築学報』の論文における指摘頻度を1年ごとに合計し，指摘度数の大きいものから小さいものへ，濃淡により段階を表現した（表-1）。表の縦軸は，各年の中心的建築用語の分布を表す。横軸は，同じカテゴリーについて，指摘頻度の経年変化を表す[8]。

3.4　カテゴリーの相関分析

カテゴリーごとの指摘頻度によって，各カテゴリー間の相関分析を行い，相関係数を求めた。相関係数は0.95から-0.33に分布し，相関係数の高いものから低いものへ，濃淡により段階的に表現した（表-3）[9]。これらの相関性は，中国の建築家が建築思想を表現するために用いる建築用語の関係性を表す。

4．キーワードの指摘頻度の統計的考察

以上，定量的に得られたデータを用いて，建築雑誌に掲載された言説の変化と仕組みを考察する。

4.1　キーワードによる建築家の言説の変遷

表-1を元に，カテゴリーごとの指摘頻度の変遷を図-3[10]，カテゴリーの割合の変遷を図-4に示し，キーワードによる建築家の言説の歴史的考察を行う。

[イデオロギー/政治理論]・[社会論][11]は，全期間を通じて比較的指摘頻度が高く，特に1966年の「文化大革命」勃発時には，全体の60％に達し，1950～1970年代の中国における社会主義の建築理論の基礎を成し，建築界に継続的かつ多大な影響を与えたといえる。

[建築文化論]・[建築様式論]は，政治状況に強く影響を受け，断片的

NII-Electronic Library Service

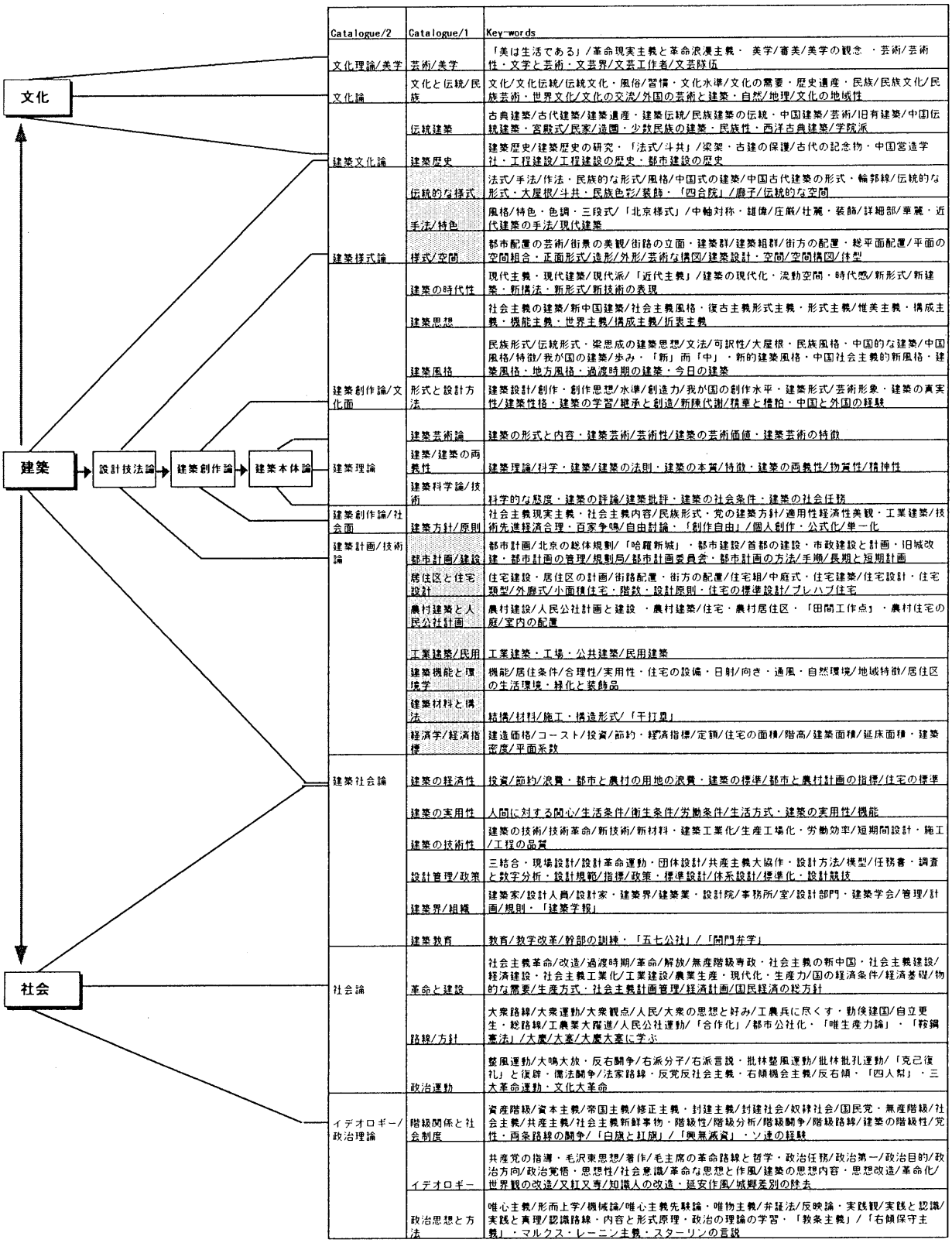
建築芸術の水準/1/　設計人員/1/　民族の遺産/1/　ソ連の経験/1/　民族の形式/1/　形式と内容の統一/1/　社会主義リアリズム/1/　建築設計/1/　思想性・思想水準/2/　芸術性・芸術の水準/2/

キーワードの抽出と指摘頻度の統計

まとめれば、我々は現実な条件だけのもとで、建築芸術の水準を高める。そして、まず我々の設計人員は、自分の思想水準と芸術水準を高めるべきだ。民族の遺産とソ連の建築経験を真剣に学習し、民族の形式の本質を納得し、他の栄養も取り込む。更に、形式と内容の統一の原理を身につける。社会主義リアリズムの路線しかに従うと、建築設計の芸術性と思想性を高めることができない。

王鷹：「継承和発展民族建築的優秀伝統」，『建築学報』5101号

図-1　建築用語のキーワードの抽出と統計



Catalogue/2	Catalogue/1	Key-words
文化理論/美学	芸術/美学	「美は生活である」/革命現実主義と革命浪漫主義・　美学/審美/美学の観念　・芸術/芸術性・文学と芸術・文芸界/文芸工作者/文芸隊伍
文化論	文化と伝統/民族	文化/文化伝統/伝統文化・風俗/習慣・文化水準/文化の需要・歴史遺産・民族/民族文化/民族芸術・世界文化/文化の交流/外国の芸術と建築・自然/地理/文化の地域性
建築文化論	伝統建築	古典建築/古代建築/建築遺産・建築伝統/民族建築の伝統・中国建築/芸術/旧有建築/中国伝統建築・宮殿式/民家/造園・少数民族の建築・民族性・西洋古典建築/学院派
	建築歴史	建築歴史/建築歴史の研究・「法式/斗共」/梁架・古建の保護/古代の記念物・中国営造学社・工程建設/工程建設の歴史・都市建設の歴史
	伝統的な様式	法式/手法/作法・民族的な形式/風格/中国式の建築/中国古代建築の形式・輪郭線/伝統的な形式・大屋根/斗共・民族色彩/装飾・「四合院」/廊子/伝統的な空間
	手法/特色	風格/特色・色調・三段式/「北京様式」/中軸対称・雄偉/圧厭/壮麗・装飾/詳細部/華麗・近代建築の手法/現代建築
建築様式論	様式/空間	都市配置の芸術/街景の美観/街路の立面・建築群/建築組群/街方の配置・総平面配置/平面の空間組合・正面形式/造形/外形/芸術な構図/建築設計・空間/空間構図/体型
建築創作論/文化面	建築の時代性	現代主義・現代建築/現代派/「近代主義」/建築の現代化・流動空間・時代感/新形式/新建築・新構法・新形式/新技術の表現
	建築思想	社会主義の建築/新中国建築/社会主義風格・復古主義形式主義・形式主義/惟美主義・構成主義・機能主義・世界主義/構成主義/折衷主義
	建築風格	民族形式/伝統形式・梁思成の建築思想/文法/可訳性/大屋根・民族風格・中国的な建築/中国風格/特徴/我が国の建築/歩み・「新」而「中」・新的建築風格・中国社会主義的新風格・建築風格・地方風格・過渡時期の建築・今日の建築
	形式と設計方法	建築設計/創作・創作思想/水準/創造力/我が国の創作水平・建築形式/芸術形象・建築の真実性/建築性格・建築の学習/継承と創造/新陳代謝/精華と糟粕・中国と外国の経験
建築理論	建築芸術論	建築の形式と内容・建築芸術/芸術性/建築の芸術価値・建築芸術の特徴
	建築/建築の両義性	建築理論/科学・建築/建築の法則・建築の本質/特徴・建築の両義性/物質性/精神性
	建築科学論/技術	科学的な態度・建築の評論/建築批評・建築の社会条件・建築の社会任務
建築創作論/社会面	建築方針/原則	社会主義現実主義・社会主義内容/民族形式・党の建築方針/適用性経済性美観・工業建築/技術先進経済合理・百家争鳴/自由討論・「創作自由」/個人創作・公式化/単一化
建築計画/技術論	都市計画/建設	都市計画/北京の総体規劃/「哈羅新城」・都市建設/首都の建設・市政建設と計画・旧城改建・都市計画の管理/規劃局/都市計画委員会・都市計画の方法/手順/長期と短期計画
	居住区と住宅設計	住宅建設・居住区の計画/街路配置・街方の配置/住宅組/中庭式・住宅建築/住宅設計・住宅類型/外廊式/小面積住宅・階段・設計原則・住宅の標準設計/プレハブ住宅
	農村建築と人民公社計画	農村建設/人民公社計画と建設　・農村建築/住宅・農村居住区・「田間工作点」・農村住宅の庭/室内の配置
	工業建築/民用	工業建築・工場・公共建築/民用建築
	建築機能と環境学	機能/居住条件/合理性/実用性・住宅の設備・日射/向き・通風・自然環境/地域特徴/居住区の生活環境・緑化と装飾品
	建築材料と構法	結構/材料/施工・構造形式/「干打垒」
	経済学/経済指標	建造価格/コースト/投資/節約・経済指標/定額/住宅の面積/階高/建築面積/延床面積・建築密度/平面系数
建築社会論	建築の経済性	投資/節約/浪費・都市と農村の用地の浪費・建築の標準/都市と農村計画の指標/住宅の標準
	建築の実用性	人間に対する関心/生活条件/衛生条件/労働条件/生活方式・建築の実用性/機能
	建築の技術性	建築の技術/技術革命/新技術/新材料・建築工業化/生産工場化・労働効率/短期間設計・施工/工程の品質
	設計管理/政策	三結合・現場設計/設計革命運動・団体設計/共産主義大協作・設計方法/模型/任務書・調査と数字分析・設計規範/指標/政策・標準設計/体系設計/標準化・設計競技
	建築界/組織	建築家/設計人員/設計家・建築界/建築業・設計院/事務所/室/設計部門・建築学会/管理/計画/規則・「建築学報」
	建築教育	教育/教学改革/幹部の訓練・「五七公社」/「開門并学」
社会論	革命と建設	社会主義革命/改造/過渡時期/革命/解放/無産階級専政・社会主義の新中国・社会主義建設/経済建設・社会主義工業化/工業建設/農業生産・現代化・生産力/国の経済条件/経済基礎/物的な需要/生産方式・社会主義計画管理/経済計画/国民経済の総方針
	路線/方針	大衆路線/大衆運動/大衆観点/人民/大衆の思想と好み/工農兵に尽くす・勤倹建国/自立更生・総路線/工農業大躍進/人民公社運動/「合作化」/都市公社化・「唯生産力論」・「鞍鋼憲法」/大慶/大寨/大慶大寨に学ぶ
	政治運動	整風運動/大鳴大放・反右闘争/右派分子/右派言説・批林整風運動/批林批孔運動/「克己復礼」と復辟・儒法闘争/法家路線・反党反社会主義・右傾機会主義/反右傾・「四人幫」・三大革命運動・文化大革命
イデオロギー/政治理論	階級関係と社会制度	資産階級/資本主義/帝国主義/修正主義・封建主義/封建社会/奴隷社会/国民党・無産階級/社会主義/共産主義/社会主義新鮮事物・階級性/階級分析/階級闘争/階級路線/建築の階級性/党性・両条路線の闘争/「白旗と紅旗」/「興無滅資」・ソ連の経験
	イデオロギー	共産党の指導・毛沢東思想/著作/毛主席の革命路線と哲学・政治任務/政治第一/政治目的/政治方向/政治覚悟・思想性/社会意識/革命な思想と作風/建築の思想内容・思想改造/革命化/世界観の改造/又紅又専/知識人の改造・延安作風/城郷差別の除去
	政治思想と方法	唯心主義/形而上学/機械論/唯心主義先験論・唯物主義/弁証法/反映論・実践観/実践と認識/実践と真理/認識路線・内容と形式原理・政治の理論の学習・「教条主義」/「右傾保守主義」・マルクス・レーニン主義・スターリンの言説

図-2　建築用語のキーワード・カテゴリー/1・カテゴリー/2

NII-Electronic Library Service

表-1　建築用語のキーワードの指摘頻度

	Catalogue/2	Catalogue/1	1954年	1955年	1956年	1957年	1958年	1959年	1960年	1961年	1962年	1963年	1964年	1966年	1973年	1974年	1975年	1976年	1977年	1978年
文化	文化理論/美学	芸術/美学	15	97	30	66	0	32	0	40	5	0	12	30	0	0	0	6	0	14
	文化論	文化と伝統/民族	40	30	9	6	6	56	2	36	7	0	5	22	0	0	0	0	0	0
		伝統建築	39	108	22	31	23	106	3	87	21	3	6	6	0	0	0	0	11	3
	建築文化論	建築歴史	4	56	2	2	81	4	0	6	2	0	0	0	0	0	45	0	0	0
	建築様式論	伝統的な様式	0	98	1	65	1	48	5	15	8	18	10	0	0	0	0	0	1	3
		手法/特色	0	1	3	116	0	11	8	31	57	18	3	0	0	0	0	0	0	6
		様式/空間	0	6	36	218	10	46	51	60	174	95	17	2	2	0	0	0	21	8
	建築創作論/文化面	建築の時代性	4	8	16	4	24	86	3	51	7	1	0	1	0	0	0	0	2	2
		建築思想	26	194	76	108	38	128	4	45	0	3	2	12	0	1	2	0	1	12
		建築風格	64	273	60	13	3	219	21	349	13	15	3	11	0	0	0	0	2	14
		形式と設計方法	29	196	145	76	40	370	53	217	52	47	65	63	9	35	0	0	0	58
建築	建築理論/建築本体論	建築芸術論	19	170	50	50	4	164	6	90	30	7	1	21	0	0	0	0	0	19
		建築/建築の両義性	6	130	277	99	30	89	1	119	16	5	47	59	0	0	0	0	0	17
		建築科学論/技術	5	0	31	7	0	1	0	2	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0
	建築創作論/社会面	建築方針/原則	13	56	118	64	19	102	12	110	16	10	11	30	3	0	0	0	1	5
	建築計画/技術論	都市計画/建設	0	36	2	160	146	27	48	8	3	4	8	0	0	26	0	0	0	0
		居住区と住宅設計	0	1	184	127	40	84	26	82	225	146	141	32	18	2	0	0	0	7
		人民公社計画	0	0	16	0	27	52	8	1	54	38	73	2	0	0	0	0	0	0
		工業建築/民用建築	0	0	0	45	13	62	32	7	2	34	13	14	0	0	0	0	0	4
		建築機能と環境学	0	4	70	110	16	39	22	64	47	182	47	1	18	2	0	0	11	0
		建築材料と構法	0	0	2	32	0	8	5	3	28	14	0	70	0	0	0	0	0	0
		経済学/経済指標	0	16	93	175	60	44	0	27	80	52	50	35	7	0	0	0	0	3
	建築社会論	建築の経済性	3	147	61	92	130	117	8	48	86	34	80	24	14	0	0	0	0	11
		建築の実用性	5	106	71	28	22	125	23	104	32	11	27	36	7	0	0	1	0	10
		建築の技術性	12	101	46	17	8	165	29	143	69	22	38	65	5	1	1	0	0	153
		設計管理/政策	0	9	33	85	35	62	29	87	44	24	22	108	16	194	1	2	0	109
		建築界/組織	37	60	101	86	25	62	44	44	28	28	28	145	3	86	2	0	0	35
		建築教育	0	0	10	27	38	13	22	0	3	0	0	7	0	34	0	6	0	0
社会	社会論	革命と建設	35	155	44	86	112	142	55	158	58	26	44	162	12	84	70	38	7	41
		路線/方針	7	9	13	25	59	146	99	85	37	9	27	174	3	66	37	7	1	5
		政治運動	0	0	0	508	8	17	11	0	2	0	0	233	21	389	122	76	3	20
	ギー/政治理論	階級関係と社会制度	46	229	120	444	252	268	135	274	84	1	15	962	6	381	101	123	11	49
		イデオロギー	25	98	37	124	81	179	116	238	42	8	47	828	22	356	109	58	22	56
		政治思想と方法	8	104	27	47	43	94	23	94	10	1	6	105	67	105	61	19	4	18
		Key-word頻度総計	442	2488	1806	3143	1394	3168	924	2724	1282	861	848	3260	233	1767	641	336	98	882
		数	5	17	24	42	13	28	15	23	18	17	9	28	3	18	9	2	2	9
		論文の平均指摘度	88.40	146.35	75.25	74.83	107.23	113.14	61.60	118.43	71.22	50.65	94.22	116.43	77.67	98.17	71.22	168.00	49.00	75.78
		建築界と社会の出来事	50.2中ソ友好同盟互助協定 50.10「抗米援朝」開始へ 53.3 「反対建築中の浪費現象」 55.10全行政社会主義への改造	55.1-7「建築学報」休刊 55.3「反対建築中の浪費現象」 56.4毛沢東「論十大関係」 56.4「百華斉放百家争鳴」提唱	56.2ソ連共産党20回大会、スターリン批判 57.2増産節約運動 57.6反右派闘争 57.8農村社会主義教育運動	57.2建築学会第二回大会 57.8建築学会第二回大会 58.1社会主義建設総路線大躍進展開 58.8人民公社運動 58.10建築界史学術討論会	58.1中ソ科学技術援助協定 58.5社会主義建設総路線大躍進展開 58.8人民公社運動 58.10建築界史学術討論会	59.5上海で住宅標準建築技術討論会 59.7廬山会議 59.9北京十大建築竣工 59-61食糧危機、経済困難	60.3教育勅語：政治と教育運動 60.6中ソ関係の分裂 60.11設計工作会議：三結合	61.1中共経済調整方針 61.3建築芸術と建築風格の討論 61.12建築学会第三回大会住宅建設問題を中心に	62.1中共七千人大会、毛沢東検討 62.9毛沢東：過渡期戦争論 62.10中印国境衝突	63.2五反運動 63.5農村社会主義の教育運動 63.9ソ連修正主義に非難 63.11「自力更生」方針 63.12大慶と大寨に学ぶ	64.6毛沢東戸別の経験方針 64.10農村の経験成功 64.11毛沢東「設計革命」 64.12「設計革命運動」	65.11姚文元「海瑞の免官を評す」発表 65.1-12建築学報休刊 66.8毛沢東文化大革命決定	67.1上海「一月風暴」 69和諸青年の上山下郷運動 69.3中ソ国境紛争勃発 71.9林彪事件 72.2ニクソン、田中訪中	73.9中共第十回全国代表大会、四人組台頭、化小平副首相として復活 73.10「建築学報」復刊	74.2批林批孔運動 74.7「鼎建命、促生産」 74.11設計革命の十年目	75.1第四回全国人民代表大会、「四つの現代化」を提出 75.10教育革命運動 75.12化小平の批判	76.1、9周恩来、毛沢東死去 76.4天安門事件 76.7唐山震災 76.10四人組逮捕、華国鋒党主席	77.7中共第11回全国代表大会、文革の林彪冒頭 77.10全国大学入学試験回復	78.2第五回全国人代会、高い経済成長 78.3全国科学大会 78.5真理の基準について討論 78.12中共11回3中全会

指摘頻度：　13-　30-　50-　100-　200-　400-

注：＊全年の平均指摘頻度の大きさは、年によって違い、それは論文の長さと用語の明確さによって決められる。
＊＊指摘度数の大きさによって濃淡の段階は、統計数の分散によって、決定した。

NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

に変化しており，1958年の「大躍進」，1966～1976年の「文化大革命」の期間は，極端に低迷し，政治運動の狭間にあたる期間に，活発に議論されていた。これは，建築界に対する政治的イデオロギーの圧力の強さを現すといえる。

キーワードの指摘頻度において，社会論と文化論は相反する関係をもっており，それぞれを代表する[イデオロギー／政治理論]・[文化論]の最大・最小のピークは，中国の政治界が激しく変化する年代と深い関係がある。社会論的指摘頻度が最大になり，文化論的指摘頻度が最小になる1957年は「右派分子」に対する攻撃，1958年は「大躍進」，1960年は「三結合」[12]と「技術革命」，1966年は「文化大革命」勃発と一致する。逆に，社会論的指摘頻度が最小になり，文化論的指摘頻度が最大になる1954年は「民族形式」の模索，1959年は「建築芸術の討論」，1961年は「百家争鳴」による「建築風格」の討論，1978年は「改革と開放政策」の開始と一致する。

1950年代中期，建築家は「文化」・「様式」・「建築風格」を注目していた。その後，政治運動の活発化に伴い，キーワードの重心が徐々に社会・イデオロギーの側に移り，「文化大革命」勃発時および収束時において指摘頻度が最大となる。1970年代の末期には建築家の興味は政治から離れ，建築文化の側面に戻っていったといえる。

また，[建築社会論]は，「実用性・経済性・可能な限り美観に注意する」という共産党の建築方針によって，全期間にわたって常に展開されているが，「復古主義の批判」後の1956年及び，1961～1964年の「調整政策」の期間中，建築家は批判されやすい建築様式や建築思想の発表を避け，即物的な技術や規範・住宅と居住区に関する研究など[建築計画／技術論]に注目していた。

以上の分析によるカテゴリーの指摘頻度の経年変化により，中国建築家の建築思潮は6期に分類することができる（表-2）。

4.2　建築家の言説の相関性

カテゴリーごとの相関分析（表-3）より，相関性の高いカテゴリーとそれらの思想的な関係を考察する。

‹階級関係と社会制度›・‹イデオロギー›などの政治的な言説は，現実の社会条件としての‹革命と建設›を踏まえ，‹建築界／組織›を検討する指針として提示される[13]。

‹建築の実用性›・‹建築の技術性›・‹建築の経済性›・‹経済学と経済指標›は，共産党の‹建築方針／原則›の影響により強く主張され，特に1955年の「復古主義，形式主義」に対する批判運動以後の建築理論は，‹建築芸術論›・‹形式と設計方法›・‹伝統建築›の基礎として‹建築の実用性›を定着させた。

表-2　1950～1970年代の中国建築思潮の分類

年　代	代表的な建築家の言説	社会背景
1954～1956	民族形式・復古主義の批判・百家争鳴・社会主義の建築理論・建築の内容と形式	第一ヶ五年計画の工業化・「ソ連に学ぶ」運動
1957～1958	反右闘争・大躍進・人民公社の建設・設計躍進・快速設計	整風・反右運動・大躍進・人民公社
1959～1960	北京十大建築・中国的社会主義的建築新風格・団体設計・技術革新と技術革命	北京「十大建築」の完成・中ソ関係の分裂
1961～1964	住宅と居住区・設計革命運動・建築形式と建築風格・新風格・民族風格・地方風格	食糧危機・経済の調整政策・設計革命運動
1965～1976	文化大革命・設計革命・干打壘・三結合現場設計・批林批孔・儒法闘争	文化大革命・大慶と大寨に学ぶ・批林批孔運動
1977～1978	四つの現代化・建築工業化・建築様式・現代的な民族風格	四人組の批判・四つの現代化・改革と開放

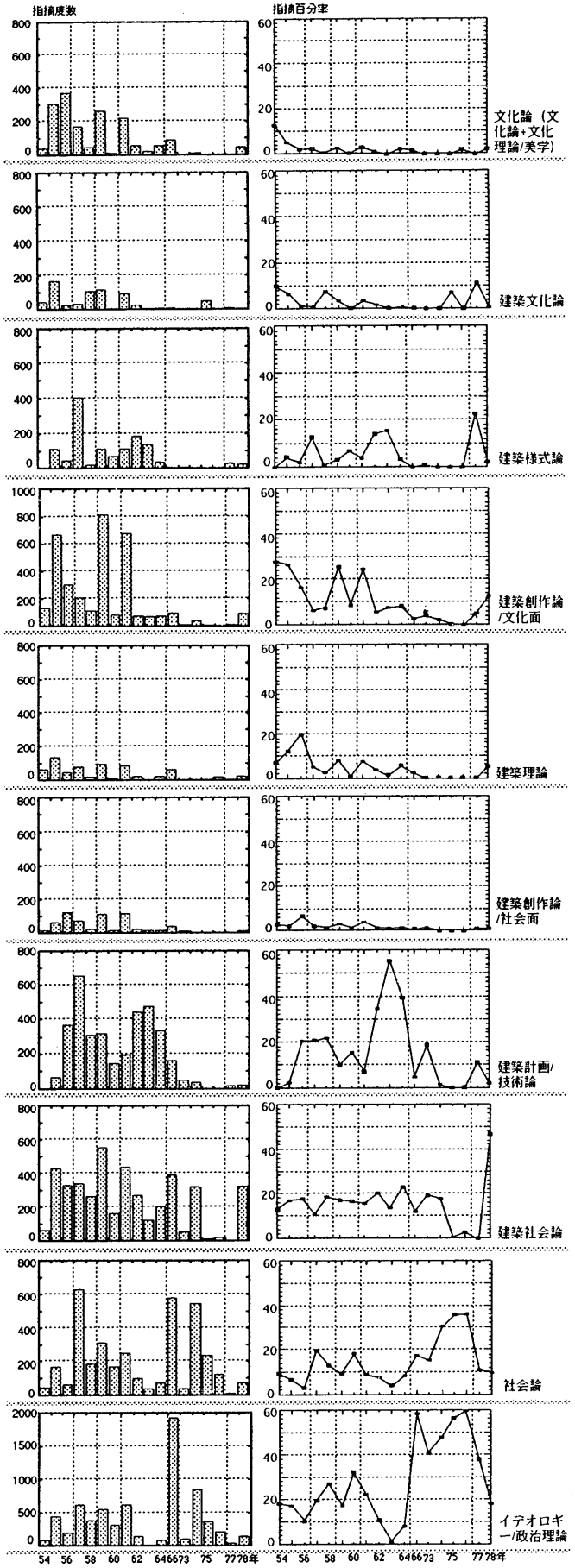


図-3　分類したキーワードの指摘頻度の比較

NII-Electronic Library Service

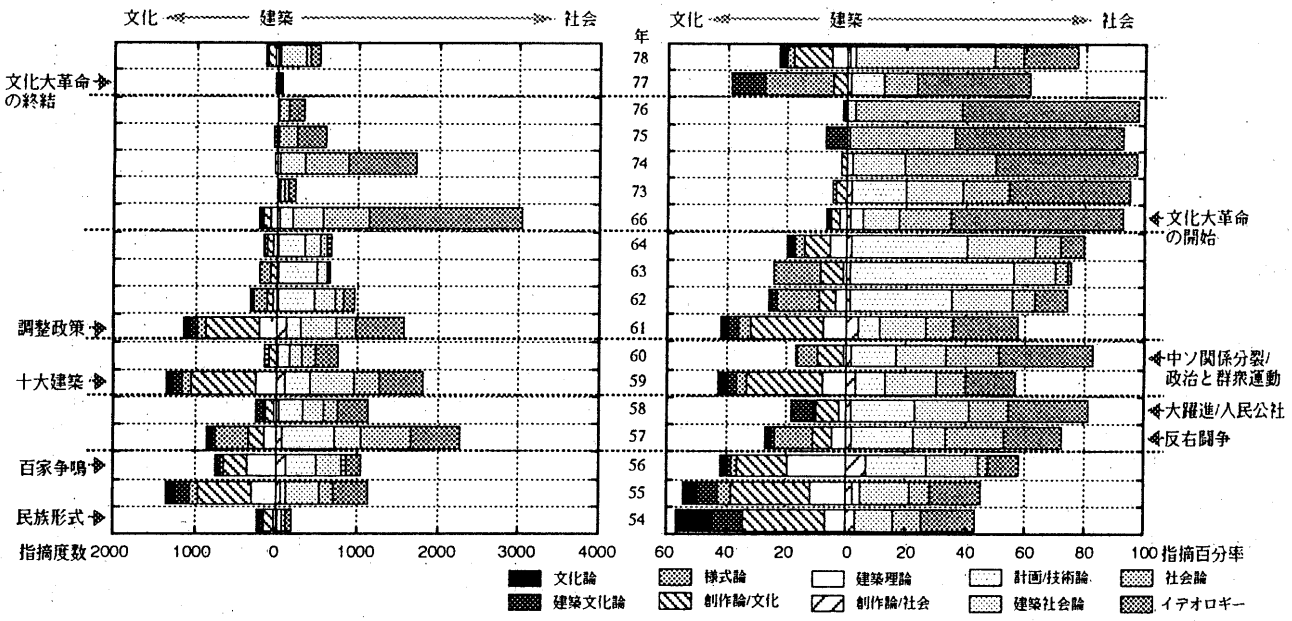


図-4　分類したキーワードの指摘頻度の変遷

表-3　建築用語のキーワードの相関分析

相関係数：0.6- 0.7- 0.8- 0.9-

	芸術/美学	文化と伝統/民族	伝統建築	建築歴史	伝統的な様式	手法/特色	様式/空間	建築の時代性	建築思想	建築風格	形式と設計方法	建築芸術論	建築/建築の両側性	建築科学論/技術	建築方針/原則	都市計画/建築	都市区と住宅設計	農村建築と人民公社	工業建築/民用建築	建築論争と環境	建築材料と構法	経済学/経済指標	建築の経済性	建築の実用性	建築の技術性	設計管理/政策	建築界/組織	建築教育	革命と建設	政治/方針	政治度動	階級闘争と社会制度	イデオロギー	政治思想と方法	「建築学論」の合計
芸術/美学	1.00																																		
文化と伝統/民族	0.51	1.00																																	
伝統建築	0.73	0.85	1.00																																
建築歴史	0.20	0.05	0.27	1.00																															
伝統的な様式	0.88	0.42	0.72	0.27	1.00																														
手法/特色	0.37	-0.02	0.13	-0.19	0.41	1.00																													
様式/空間	0.30	-0.04	0.11	-0.23	0.40	0.95	1.00																												
建築の時代性	0.24	0.71	0.74	0.08	0.26	0.05	0.09	1.00																											
建築思想	0.89	0.59	0.83	0.36	0.90	0.24	0.23	0.47	1.00																										
建築風格	0.65	0.77	0.92	0.16	0.57	0.03	0.01	0.69	0.67	1.00																									
形式と設計方法	0.56	0.73	0.86	0.02	0.56	0.10	0.14	0.89	0.72	0.81	1.00																								
建築芸術論	0.72	0.77	0.95	0.20	0.80	0.14	0.14	0.69	0.90	0.85	0.90	1.00																							
建築/建築の両側性	0.63	0.35	0.49	0.05	0.38	0.16	0.19	0.37	0.54	0.49	0.59	0.57	1.00																						
建築科学論/技術	0.18	0.01	0.01	-0.16	-0.06	0.07	0.12	0.05	0.23	0.01	0.17	0.08	0.73	1.00																					
建築方針/原則	0.61	0.63	0.78	-0.01	0.44	0.28	0.31	0.72	0.67	0.72	0.83	0.75	0.88	0.57	1.00																				
都市計画/建築	0.29	-0.06	0.13	0.47	0.39	0.55	0.51	0.10	0.37	-0.06	0.04	0.09	0.10	0.00	0.15	1.00																			
都市区と住宅設計	0.07	-0.01	0.05	-0.25	0.09	0.53	0.64	0.17	0.07	0.01	0.25	0.10	0.44	0.41	0.42	0.07	1.00																		
農村建築/公社	-0.17	0.11	0.09	-0.05	0.03	0.07	0.20	0.30	-0.03	-0.04	0.29	0.10	0.04	-0.07	0.09	-0.02	0.69	1.00																	
工業/民用建築	0.18	0.33	0.30	-0.15	0.41	0.43	0.56	0.53	0.34	0.14	0.52	0.36	0.08	-0.11	0.35	0.44	0.29	0.38	1.00																
建築論争と環境	0.09	-0.08	0.03	-0.24	0.22	0.52	0.74	0.10	0.09	0.05	0.16	0.06	0.24	0.21	0.30	0.19	0.69	0.37	0.51	1.00															
建築材料と構法	0.20	0.10	-0.09	-0.23	0.07	0.39	0.37	-0.08	-0.01	-0.15	0.00	0.00	0.06	-0.07	0.08	0.10	0.27	0.03	0.28	0.17	1.00														
経済学/経済指標	0.39	-0.01	0.11	-0.02	0.37	0.61	0.83	0.12	0.36	-0.05	0.20	0.17	0.50	0.42	0.47	0.61	0.77	0.32	0.46	0.62	0.42	1.00													
建築の経済性	0.60	0.40	0.65	0.52	0.76	0.31	0.32	0.47	0.76	0.45	0.59	0.67	0.49	0.05	0.51	0.53	0.42	0.49	0.36	0.22	0.07	0.55	1.00												
建築の実用性	0.69	0.78	0.90	0.14	0.62	0.10	0.13	0.71	0.71	0.88	0.95	0.93	0.78	0.21	0.87	0.05	0.27	0.22	0.35	0.13	0.05	0.22	0.67	1.00											
建築の技術性	0.45	0.61	0.66	-0.07	0.38	0.06	0.04	0.66	0.46	0.70	0.72	0.72	0.37	-0.06	0.58	-0.16	0.15	0.19	0.28	0.00	0.08	0.01	0.38	0.78	1.00										
設計管理/政策	0.07	0.02	-0.03	-0.25	-0.03	0.20	0.12	0.12	-0.03	0.04	0.16	0.03	0.05	0.06	0.13	0.14	-0.01	-0.14	0.12	-0.03	0.32	0.12	-0.07	0.06	0.29	1.00									
建築界/組織	0.47	0.32	0.19	-0.16	0.23	0.19	0.18	0.13	0.37	0.15	0.36	0.31	0.56	0.45	0.49	0.17	0.20	-0.09	0.25	0.08	0.65	0.40	0.21	0.38	0.26	0.61	1.00								
建築教育	-0.06	-0.14	-0.09	0.28	0.02	0.22	0.21	0.11	0.10	-0.22	0.00	-0.10	0.02	0.14	0.05	0.76	-0.03	-0.04	0.33	-0.02	0.06	0.33	0.24	-0.07	-0.25	0.47	0.34	1.00							
革命と建設	0.61	0.63	0.66	0.39	0.49	0.10	0.02	0.55	0.58	0.67	0.64	0.67	0.37	-0.12	0.55	0.28	-0.05	-0.03	0.27	-0.12	0.39	0.14	0.54	0.78	0.55	0.39	0.56	0.24	1.00						
政治/方針	0.06	0.47	0.25	-0.04	-0.01	-0.04	-0.03	0.52	0.08	0.25	0.47	0.27	0.07	-0.16	0.31	0.08	-0.02	0.13	0.48	-0.13	0.56	0.00	0.13	0.41	0.37	0.45	0.57	0.32	0.78	1.00					
政治度動	0.22	-0.18	-0.19	-0.14	0.18	0.53	0.42	-0.22	0.07	-0.26	-0.16	-0.12	-0.02	0.08	-0.03	0.46	-0.06	-0.33	0.21	0.07	0.44	0.42	-0.09	-0.22	-0.27	0.62	0.50	0.54	0.21	0.19	1.00				
階級闘争と制度	0.35	0.25	0.11	0.06	0.15	0.16	0.07	0.10	0.19	0.09	0.17	0.17	0.18	-0.02	0.23	0.26	-0.11	-0.25	0.21	-0.14	0.76	0.22	0.11	0.21	0.13	0.55	0.76	0.36	0.72	0.76	0.61	1.00			
イデオロギー	0.16	0.24	0.01	-0.10	-0.06	-0.07	-0.14	0.06	-0.02	0.07	0.12	0.06	0.06	-0.10	0.11	-0.04	-0.18	-0.21	0.09	-0.22	0.28	-0.04	-0.10	0.14	0.17	0.60	0.34	0.20	0.64	0.28	0.46	0.93	1.00		
政治思想と方法	0.47	0.45	0.50	0.24	0.38	-0.07	-0.17	0.40	0.46	0.53	0.49	0.54	0.25	-0.07	0.38	0.09	-0.30	-0.29	0.09	-0.27	0.23	-0.09	0.24	0.52	0.35	0.51	0.51	0.23	0.80	0.58	0.37	0.67	0.65	1.00	
「学論」の合計	0.78	0.57	0.61	0.07	0.58	0.42	0.38	0.54	0.65	0.55	0.78	0.68	0.57	0.18	0.72	0.37	0.25	0.04	0.50	0.19	0.55	0.51	0.56	0.72	0.52	0.51	0.74	0.32	0.86	0.65	0.44	0.72	0.61	0.78	1.00

‹建築芸術論›・‹形式と設計方法›は，1950年代からの「民族形式」の批判・「社会主義の新風格」に関する議論・「建築形式と風格についての討論」の論争の主題となった。

‹文化と伝統/民族›は，‹伝統建築›・‹伝統的な様式›・‹芸術/美学›と，‹伝統建築›は，‹建築思想›・‹建築風格›とそれぞれ相関が強い。これは，建築家が民族性・伝統性を追求していたことを表している。逆に，‹建築の時代性›は，‹建築の実用性›・‹建築の技術性›・‹形式と設計方法›・‹建築風格›と相関が強く，建築家が技術の近代化に伴って様式も近代化させることを望んでいたことを示す。当時の建築家が，伝統的様式を踏襲しつつ近代化を目指していたことが伺える。

5．建築思潮の分類と建築思想の構成

以上のカテゴリーの経年変化と相互関係及び，図-2における「社会背景－建築－文化背景」・「建築本体論－建築創作論－設計技法論」のふたつの軸に基づいて，建築理論に対する討論の枠組みと仕組みを分析し，建築思想の構成を捉える（図-5）。

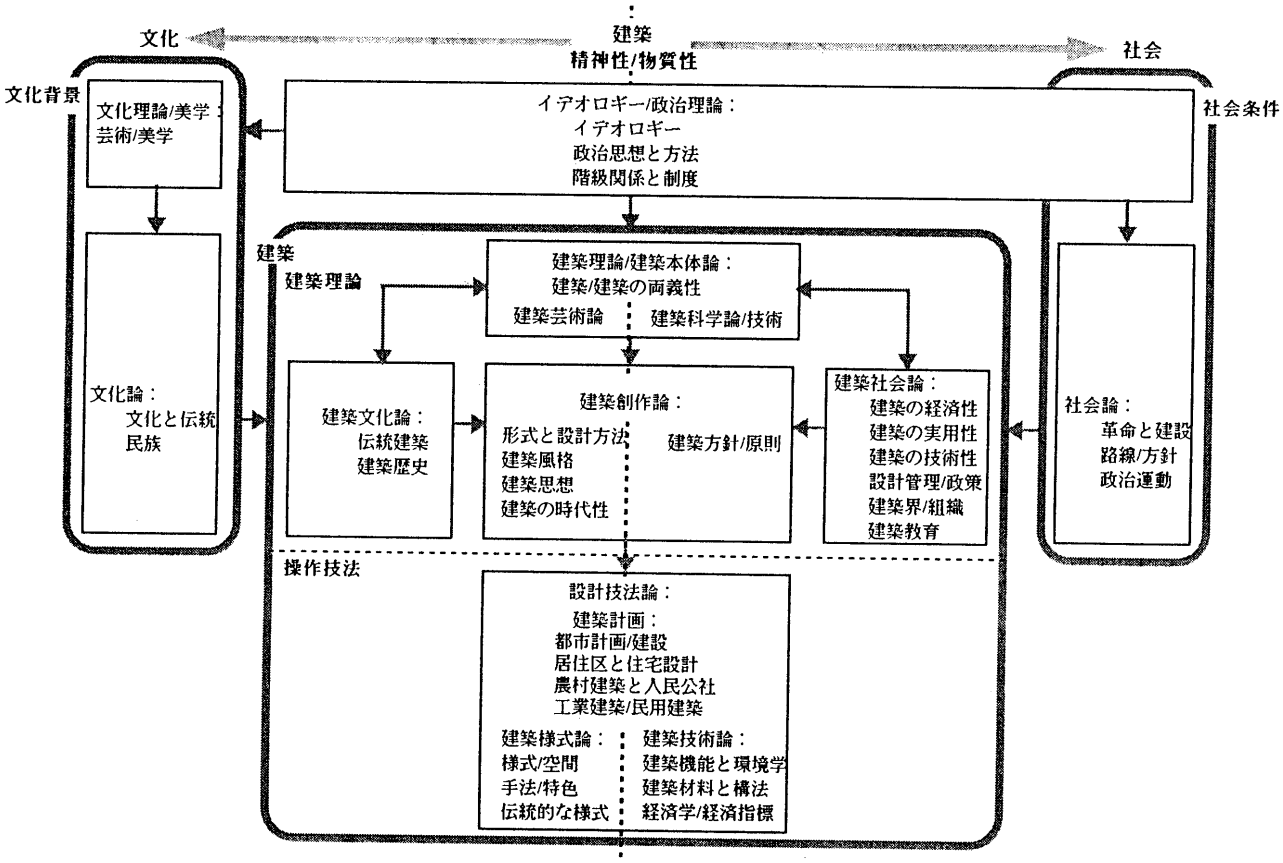
当時の社会背景において，マルクス主義の概念とそれに基づく分析方法は，何に対しても唯一の認識方法とされた。レーニンの「プロレタリア文化建設」，スターリンの民族説，毛沢東の「社会主義文学と芸術の理論」[14]など，マルクス主義に基づく理論は，社会主義圏の建築理論の根底を成し，建築家は，このような理論を次々と建築理論へと変換し，イデオロギーに基づく建築学の成立を目指すとともに，社会制度としての「資本主義と社会主義」・イデオロギーとしての「ブルジョアジー思想とプロレタリア思想」の二項対立的思考を建築分野に導入し，「社会主義の建築思想」を構成していった。

中華人民共和国成立以後，政府は経済条件・工業化推進等の政策に基づいて，象徴的な建設事業（1959年の「十大建築」など）以外の公共建築・住宅などの建設を「勤倹建国」の原則によって制限した。同時に，建築芸術上の原則として「社会主義・リアリズム」[15]が提唱され，中国の伝統的な建築が国家の唯一の「正しい」様式の見本として政治的に認可された。以上の，社会的及び文化的条件の両立が，「中国的社会主義の建築理論」の基礎とされたが，経済上の制限と様式上の制限は，新しい民族様式を生み出した一方で，多くの小規模建築では実現されず，中国における建築理論の根本的な矛盾の発端となったといえる。

この時代の多くの建築家による建築論は，マルクスの唯物論より「建築」を物的な現象として捉え，「物質性と精神性」による両義的な

NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan



図－5　建築家の言説よりみる建築思想の仕組み

観点から，機能と様式を考究しており，即物的な[建築科学論]と精神的な[建築芸術論]とに分類される。「建築理論」は必ずその両義性を「弁証的」に論証しており，一面的に建築様式だけあるいは機能・構造だけを強調する建築論は，資本主義的な「形式主義」・「復古主義」・「機能主義」・「構成主義」・「国際主義」などのいずれかに属するとして，批判するべきとされた。「建築創作論」は，以上の資本主義的とされる建築思想を慎重に避け，様式・経済・技術面などのバランスを適宜求めてきた。この論証の唯一の結論は，「実用性・経済性・美観」という共産党の建築方針そのものであった。「設計技法論」は，「建築創作論」によって決定された設計の原則に従い，詳細な建築指標と具体的な様式や手法を検討してきた[16]。

この構成は「形而上から形而下へ」という哲学レベルの構造と「社会・文化より建築を決定する」という社会決定論の建築観を現している。こうした言説の枠組みと仕組みは，マルクス主義の哲学の影響及び中国共産党の建築方針によって定められた現実であり，この時代の特色であるといえる。

6．結び

本研究は1954～1978年における中国の『建築学報』に掲載された281篇の論文を研究対象とし，建築家の言説における用語のキーワードを抽出・統計し，単語の意味によって「社会背景－建築－文化背景」などの軸に分類し，中国建築思想の時間的・構造的考察を行ったものである。

この時期の中国建築界において，建築と建築様式は建築家の言説の焦点となり，激動していた社会の政治と経済の状況の影響によって，建築理論の諸側を取り組み，相応しく起伏し，芸術的・即物的・政治的なテーマを取り替え，断片的な様子を呈した。その間，建築用語の傾向は，政治運動の高まりに伴って急増し，全般的に，文化の側から社会の側に移行し，70年代末期の政策改革に従って，再び文化の側に戻った。この時期の建築用語の指摘頻度からみると，当時の建築家たちの建築観は，マルクス・レーニン主義のイデオロギーと当時の東西冷戦構造の影響を受けて，すべて「二つの路線」（プロレタリアとブルジョアジー）と「両陣営」（社会主義と資本主義）のいずれかの立場に立ち，鮮明な階級性・政治性をもっており，「建築－建築芸術と建築科学－建築創作－設計技法」のようなマルクス哲学の構造を反映し，「社会－建築－文化」現実の経済と伝統建築の国情を配慮し，建築理論の基準と仕組みとなる。既往の「ブルジョアジーの様式を中心とする」建築観は，「社会主義・リアリズム」によって批判され，建築思想の社会主義化・技術的な工業化・新しい民族様式の確立及びそれら相互の関連づけと応用がテーマとされた。この時代の主たる論点は，当時の現実的経済建設に見合う実用性・経済性・美観に基づいた「中国的社会主義の建築理論」の枠組みと仕組みであり，社会的及び文化的条件の両立は，伝統的な建築文化の近現代化の過程において避けられない矛盾であったといえる。

謝辞：

本研究の一部は，中国清華大学の修士論文を敷衍したもので，呉煥加教授から御教示を賜りました。名古屋工業大学岡島達雄学長，河辺伸二助教授に様々なご指導をいただき，武廉正樹研究員，趙衍鋼助手，石川鑾さんなどにいろいろ世話になりました。また，中国語・英語に詳しい鷲田先生ご夫婦には日本語の修正をいただきました。記して謝意を表します。

注：

1）清朝末期，中国は深刻な政治的・文化的危機と直面し，当時の政府は教育を含む一連の

NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

改革を断行し，現代的な建築学など学問を導入した。建築学の教育は，1899年に建築系の中国人留学生の海外派遣から始まった。1921年頃から，呂彦直の「彦記建築事務所」，荘俊の「荘俊建築師事務所」，趙深・陳植・童寯の「華蓋建築師事務所」など，帰国留学生による建築事務所が多く成立した。1928年，建築士による最初の学術団体「中国建築師学会」が設立され，1931年11月，機関雑誌『中国建築』が創刊された。1928年，東北大学，中央大学の建築学部が設立され，中国独自の建築学の教育が開始された。以上より，1920年代は中国建築学界の黎明期といえる。

2）中国語では，「modern」・「modernism」・「modernization」は，それぞれ「現代」・「現代主義」・「現代化」と訳され，「現代」は「contemporary」の意味を含む。中国語の「近代」・「近代化」は，それぞれ「pre-modern」・「pre-modernization」にあたる。本論文では，日本における慣例に従って，「近代」・「近代化」を「modern」・「modernization」とする。

3）20世紀初頭，「建築学」と「建築」という言葉は，中国人の海外留学によって，西欧・日本から中国に導入された。当時の建築系学生の多くはアメリカへ留学し，なかでもペンシルベニア大学が留学先として最も多く選ばれた。当時，ペンシルベニア大学の建築学部はクレット（Paul P. Cret）が主宰しており，ボザール教育が注目されていた。範文照，趙深，童寯，陳植，楊廷宝及び梁思成といった中国建築学界の名士は，すべてこの大学を卒業している。1928年，東北大学において梁思成が中心となって創立した中国最初の建築学部は，ペンシルベニア大学のボザール教育体系を導入した。

4）中国建築の近現代化について研究は，主に下記のものがある：

*ｶｲ徳順，ほか2名： 中国現代建築歴史の大綱，天津科学技術出版社，1989年

*傅朝卿：中国古典的な様式の新建築--20世紀中国の新建築の官制化の歴史に関する研究，台北南天書局，1993年

*陳志華：中国における当代建築の歴史の大綱，中国の建築における評論と展望，天津科学技術出版社，1989年

*賴德霖：中国の近代建築の歴史に関する研究，清華大学の博士論文，1993年

*張欽楠：中国における建築創作の40年間，中国建築年鑑1988-89年，中国建築工業出版社，1989年

*劉廷：当代建築の思潮1949--1964，建築師，第35号，中国建築出版社，1989年

*顧孟潮：当代建築文化と建築美学，天津科学技術出版社，1989年

*田中啖：中国建築学界解放後のあゆみ，建築雑誌，1976年第1号，日本建築学会，1976年1月

*尾島俊雄：現代中国の建築事情，彰国社，1980年

5）設計革命は，1964年に毛沢東の指示によって発動された，工業と建築などの設計工作と管理工作における群衆的な革命運動である。建築界では，形式を中心とする，詳しい設計規範による資本主義・修正主義の創作観と管理方法を批判し，設計者の思想の社会主義化・設計案の実用化・技術の革新化等を目指していた。

6）阿部純一，ほか2名： 人間の言語情報処理--言語理解の認知科学，p142による。論文の主旨の検出と用語の分析について，主に下記の文献の助けを借りる。

*千賀正之：図書分類の実務とその基礎--データ作成と主題検索へのアプローチ，日本図書館協会，1995年

*日本建築学会：建築-都市計画のための調査・分析方法，井上書院，1987年

*阿部純一，ほか2名：人間の言語情報処理--言語理解の認識科学，サイエンス社，1994年

*川喜田二郎：KJ法--渾沌をして話らしめる，中央公論社，1986年

*P. N. Johnson-laird，海保博之監訳，AIUEO訳：メンタルモデル--言語・推論・意識の認識科学，産業図書株式会社，1988年

*Sidney and Beatrice Webb，川喜多喬訳：社会調査の方法，東京大学出版会，1994年

*奥山信一，ほか2名：戦後「新建築」誌にみられた建築家の創作の主題--建築家の創作論に関する研究，日本建築学会計画系論文報告集，第454号，pp. 77-86，1993年12月

*奥山信一，ほか1名：戦後「新建築」誌における建築家の創作論，日本建築学会計画系論文報告集，第477号，pp. 101-108，1995年11月

*藤岡洋保：昭和初期の日本の建築界における「日本的なもの」--合理主義の建築家による新しい伝統理解，日本建築学会計画系論文報告集，第412号，pp. 173-180，1990年6月

*藤岡洋保，ほか1名：明治末期から昭和戦前の建築・美術・都市関係雑誌に示された都市美に対する考え方について，日本建築学会大会学術講演梗概集（中国），pp. 761-762，1990年10月

*丸山茂：伊東忠太，明治20年代の建築観とその変化，日本建築学会計画系論文報告集，第266号，pp. 151-157，1978年4月

*近藤正一，ほか2名：戦前から戦後の建築雑誌に現れた建築思潮（その1）-カテゴリー分類による時代的変遷，日本建築学会大会学術講演梗概集（関東），pp. 257-258，1997年9月

7）用語を分類し，「社会背景-建築-文化背景」といった軸に配置する際，［イデオロギー/政治理論］は，社会制度の理論として，文化の一部分として，経済・政策などとの連絡が強く，「社会」方面に属していると考える。建築様式論・建築計画/技術論を含む「設計技法論」は，詳しい設計の技法・様式・技術を討論し，ほかの建築理論と区別するために，網かけ表示した。

8）相対的な比較ができるように，毎年のカテゴリー毎に指摘度数の絶対数から百分率を計算し，表-1と同様な分散特徴を現すことを確認した。

9）表-3の建築家の用語の相関分析によって，「設計技法論」は，他のカテゴリーとの相関係数がかなり低く，この時代の建築観念システムの中で，独立していると考え，網かけとした。

10）図3と図4より明確に比較するため，11のカテゴリー/2の分類を調整し，指摘度数がかなり低い〈文化理論/美学〉と〈文化論〉の二つのカテゴリーを合計し，〈文化論〉として示す。

11）カテゴリー/1の内容は〈〉・カテゴリー/2の内容は［］の括弧で，標示する。

12）「三結合」は，1950年代の末期，中国共産党の「群衆路線」による発想で，専門家・指導者・労働者の三者による意見を平等に尊重するための制度であり，設計業務の指針とされた。

13）表-3より〈建築材料/構法〉と〈階級関係と制度〉・〈イデオロギー/政治理論〉の強い関係は，その時期に提唱された「干打壘」と「延安精神」・「自立更生」の方針を反映している。

14）これらの理論と政策の内容は，当時の中国における政治教育用教科書で下記のように説明されている。

マルクス主義の物質観：物的な世界と精神的な世界が両立する一方，精神的な世界が物的な世界によって決められる。

マルクス主義の発展観：一切の事物は変化と運動し続け，静止しない。

内容と形式原理：事物の本質は内容と形式とに区別することができ，内容が形式を決める。

レーニンのプロレタリア文化建設の言説：プロレタリアの新しい文化は，以前の一切の文化遺産を継承し発展するもので，ブルジョアジーの文化も，その新文化の栄養として取り込まれるべきである。

スターリンの民族学説：民族の間の関係は平等であり，伝統文化は民族の標示として保護されるべきである。

毛沢東の社会主義文学と芸術の理論：民族的な形式・科学的な内容・大衆的な方向を中国の社会主義の文化建設の指針として明確にする。

15）「社会主義・リアリズム」という思想は，もともとソ連の文学と芸術界の指針として，建築芸術と建築創作の基礎とされていた。建築様式は社会主義の政治性・イデオロギーを反映すべきであり，装飾を凝らした民族的建築様式は，現実の生活と大衆の感情を反映し，正しい様式に属するという。

16）注7）と同じ。

参考文献：

1）注4）を参照。

2）注6）を参照。

3）黄健敏：中国建築教育溯往，建築師（台北），1985年11月号，pp34-38

4）張復合：中国近代建築史自立時期之概略，建築学報（北京），1996年11月号，pp31-34

5）路秉傑：建築考辨，時代建築（上海），1991年第4号，pp27-30

6）賀陳詞：建築上的伝統与現代問題，世界建築（北京），1982年2月号，pp70-71

7）姫田光義，ほか3名：中国近現代史，東京大学出版会，1982年

8）小島晋治，丸山松幸：中国近現代史，岩波書店，1986年

9）J. K. Fairbank：中国--アメリカと中国，市古宙三訳，東京大学出版会，1972年

10）藤森照信，ほか1名：全調査東アジア近代の都市と建築，大成建設，1996年

11）加藤祐三：アジアの都市と建築，鹿島出版会，1986年

12）村松伸：上海一都市と建築1842-1949年，PARCO出版局，1991年

（1998年6月9日原稿受理，1998年9月8日採用決定）

NII-Electronic Library Service